

2019年度 プロジェクト研究所業績報告書（中間報告）

プロジェクト名	国際教育ボランティアにおける「深い学び」を促進する教育モデルの開発
研究所名	国際教育研究所（所長 言語文化教育研究センター 中山誠一 教授）
設置開始	2018.4.1
設置終了	2021.3.31

■研究の進捗状況（研究員の活動実績含む）

本年度は、研究計画に沿って以下の通り研究を行った。

2019年4月：読み聞かせ教材の開発に着手。協力者に作成を依頼し、9月までに40教材完成。

2019年9月：所長が、ワデル・ランゲージ・アカデミーを訪問し、降矢恵美子教諭および金城翔太教諭と開発した40教材について今後どのように活用するかについて打ち合わせを行った。

2019年11月：本学常磐祭にて経過報告を行った。

2020年2月：昨年度の研究結果が日本心理学会英文誌 Japanese Psychological Research に掲載された。

2020年3月：読み聞かせ教材の作成者2名をワデル・ランゲージ・アカデミーに派遣し、現地研究員の指導の下、教材の有効性について検討を行う（中止）。

■現在までの達成度

本研究では、以下に示す3つの達成目標を掲げている。本年度は、これらのうち、2. 漢字学習を目的とした読み物の開発に焦点を当てて研究を行った。

2. 漢字学習を目的とした読み物の開発

本年度は、読み物教材の作成を主に行った。具体的には、協力者2名（以下教材作成協力者）に作成を依頼し、9月までに40教材、2020年3月には、さらに122教材を完成し、小学校1年生から中学校2年生を対象とする読み物教材をほぼ完成した。同月には、同2名の協力者をワデル・ランゲージ・アカデミーに派遣し、現地研究員と共に、作成した教材の活用方法について検討する予定であったが、コロナウイルス感染による社会情勢危機により、派遣を来年度に先送りすることにした。

■次年度以降の研究（見込み）

来年度については、本研究の第3の目標である3. 事前研修プログラムの開発〈汎用性の検討〉を中心に取り組む。具体的には、9月に、本年度実施を見送った教材作成協力者の現地派遣を行い、教材の活用方法について検討を行う。さらにその結果を踏まえて、2月に実際アカデミックボランティアに参加する学生に、現場で教材を使った教室内活動を行ってもらう。その後、読み聞かせ教材を使った教授活動が、どの程度有効であったか、新たな発見があったか、さらに今後どのように役立てたいかについて面談調査を行い、事前研修プログラム開発に必要なデータを収集する。

■研究活動における成果

(1) 研究成果（雑誌、学会発表、図書等）

Nakayama, T. (2020). Effectiveness of the Visual-Auditory Shadowing Method on Learning the Pronunciation of Kanji. *Japanese Psychological Research*. doi: 10.1111/jpr.12278

(2) 学生・生徒の教育及び支援に関する還元

2019年11月本学常磐祭にて経過報告を行った。